



東京ドーム1.7杯分の残土搬入で東コース（グリーンは007 70%とタイイ30%の混合）をフラットなコースに

その 236

クローズアップ21

厚木国際カントリー倶楽部 6年かけた東コース改造終了

東西で36ホール運営の理想形を進化させる

厚木国際CC（36H、神奈川県厚木市）は、2014年2月から6年に及ぶ東コースの改造工事をほぼ終了。7月11日から、メンバーと同伴者に限って土・日祝日のプレー受け入れを始めた。

8月下旬から平日の利用も開始する予定で、最後に行っている東コース売店の完成を待って9月中旬にグランドオープンし、完全な形での36ホール営業体制に戻ることにした。

同クラブは東名・厚木ICから車で約20分、新宿から小田急線を利用して送迎バスで約1時間の申し分ない立地条件。従来人気の西コースに加え、趣の異なる東コースがリニューアル。懸案だった練習場も総合練習場として整備した。こうして好立地と会員数が少ない好条件の上で、「コースが選択できる」接待コースとしての理想形を進化させた。

今回はなぜこの時期に改造が可能であったのか。他のゴルフ場もうらやむ、その手法も含めレポートする。

新・東は西コースと同じ
コースレート72・2に

同クラブは昭和34（1959）年11月の開場で昨年開場60周年を迎えた。

守屋薫支配人は「東コースを造成していたのは昭和31、32年頃でもアップダウンがありませんでした。その後に西コースを造ったので、西コースはフラットで人気でした。でもこれからはそういうことはありません。しかも難易度（コースレート）も72・2で東西とも同じになりました」ときっぱり。

広報も担当する野口拓男総務部長も「新しい東コースは池が絡んだアメリカンスタイル。これからは東西の趣きが異なるコースで楽しんで頂きます」と同調する。

そもそも工事を始めるきっかけは残土受入れの話があったからだ。当初180万立米、結果的に東京ドーム1・7杯分という190万



守屋薫支配人

東コースは相模川をイメージ
池の多いコースに

姿勢に評価が高い。同クラブの
費値上げなど費用面の負担をかけ
ずに改造を仕上げた」

立米の残土を東コースの盛り土用
に使い、東コースをフラットにす
る計画が出来上がったという。主
にホール内で凹んでいた部分を最
大で10メートル以上嵩上げした。
改造工事に着工した2014年
当時は一時、会員権相場が400
万円を割ったこともあるのだが、
東のインコースが完成した201
7年3月頃から上昇傾向が続き、
2019年には800万円を超え
るまでとなった。



野口拓男執行役員総務部長

今は新型コロナウイルスの影響もあり、
少し下がった気配になったようだ
が、会員権市場では基本的に売り
物が少ない状況で、「会員に年会



最後に芝を張った東アウト3番。場外に面して
おり、バイパスの厚木北ICがすぐ近くで
きる予定



先に完成した東イン17番。右側にはクリーク
が流れる

2014年2月の工事着工当時、
同クラブは新・東コースの完成図
面をCGにして会員向けに披露、
新しいリーフレットも作成した。
経営する厚木国際観光(株)は当時、
米国ハワイやカリフォルニア州西

海岸で30年以上ゴルフ場を運営し
ていた経験があり、東コースの改
造はその経験を生かして自社の設
計・監理で行い、監修はシニアア
ターでも活躍する羽川豊プロに依
頼、施工は竹中土木が担当した。
東コースは西コースに比べP71
で距離が短く、一方でメンバーの
高齢化も進み、高低差の大きいレ
イアウトが負担に感じるなどの現
状認識を踏まえ、西コースと遜色
ないコースとして全面刷新を行う
方針と当時説明していた。

新・東コースは相模川の「水」
をメインテーマとし、フラットな
レイアウトで、18ホール中半分の
9ホールに池やクリークを絡ませ、
グリーンを1グリーン化してダブ
ルグリーンやアンジュレーション
のあるグリーンなど戦略性と造形
美を兼ね備えたコースをコンセ
プトとして設計したという。さら
にグリーンには排水性を高めること
を目的として米国Precision社の地
中内水分・湿気管理装置を導入し、
一定の成果をあげている。

最初は5年半で新・東コースを
完成する計画だったが、2016
年にゴルフ場全体の改修プログラ
ムの一環として計画していた総合



西コースは2グリーン (A:バンクロス、B:
ドミネント)

練習場の新設が、地元の厚木市か
ら一部条件付きで承認されて計画
が膨らんだ。既存の練習場は60ヤ
ード(11打席)と距離が短く、そ
の拡充が長年の懸案であった。

元々ナーセリーだった土地で、
280ヤード、18打席のドライビ
ングレンジと、アプローチャやバン
カーも練習できる新・総合練習場
が昨年8月3日にオープンした。

その上ロツカールームのロツカ
ー入れ替えや、会員の高齢化によ
り、電車、クラブバス利用者が増
えると思込んで2017年12月に
小田急線本厚木駅から徒歩3分
にある自社ビル「厚木国際ビルデ
ィング」4階に待ち合わせ用の専用
ラウンジを開設、クラブバスの待



アプローチやバンカーの練習ができる総合練習場に



元のナースリーに280Y（18打席）のドライビングレンジ整備

ち時間にチェックインもできて、冷暖房の効いた部屋でお茶休憩ができるようになった。

現在の会員数は正会員1250名、平日（週間）会員250名の名計1500名という。「今までの



小田急線本厚木駅近くにクラブバス利用者のためのラウンジを開設。チェックイン手続きも可能

施策は会員さんが居心地の良いクラブにしようと考えてきました。新たに会員を募集する計画は今のところございません。会員中心の少数会員制を今後も維持していきます」（野口部長）。

支配人も「予約が取れないと会員制クラブは始まらないです」と自然体でいて、クラブの本質を外さない姿勢だ。

「一時は会員権に全然売りがありませんでしたが、相場が下がった時に個人会員が増えて、法人会員の割合は53%くらい。一時は6対4くらいでした。法人で会員だった方が会社をやめられて、個人で入られる方が徐々に増えている」（野口部長） そうだ。

今秋からは本格的に36ホール営



館内でのマスク着用を看板で掲示

業に戻るようになるが「新型コロナウイルスの影響もあり、どこまで来場者数が回復するかは予想が困難」（支配人）と当面の数値目標には特に重きをおいていない。

同CCの新型コロナウイルス対策カートにもシールド

もちろん、コロナ対策として、手指の消毒や従業員、来場者のマスク着用など基本的対策を実施しているが、7千平方メートルの大規模クラブハウスだけに密になりやすく「お客様は安心して来場されています」（支配人）と力強く話す。

レストランは、天井が高く、しかもテーブルを4卓組み合わせさせて設置している。浴室・脱衣室は4



レストランはテーブル4つを使い、安心のソーシャルディスタンス

月の緊急事態宣言での営業自粛の後に一時使用を制限したが、その後は利用人数の制限等により3密化を避けている。ロッカーも同じ時間帯の利用をバラけさせる工夫をしている。

そして話題となった乗用カートは営業自粛明けからビニールのシートで座席をセパレートして、飛沫感染対策を実施した。ハウス内のフロント前面もビニールでシールドしており、従業員の安全対策でもあるという。

東コースの監修を担当した羽川プロは、専修大学ゴルフ部時代に同クラブで練習していた関係にある。今もゴルフ部学生が週末になるとキャディとしても手助けして

くれる存在だ。

同クラブにはハウスキャディが40名ほど在籍し、うち10名強が地方の高校を卒業した若い人たち。「これから東北などで全国一斉に求人活動を行います、どうぞでしょうか?ここ何年かは続けて応募者がいましたが、就職しても長続きしないのが悩みです(支配人)。寮や社宅、産休制度を充実させ、都市部に近いゴルフ場でも求人難だという。

支配人は「ハード面の整備はこれで一段落します。これからはソフト面です」と話し、若き従業員を指導し、サービスを力を注ぐ考えだ。しかも「接待されている人を素早く見抜き、嫌な気分にはさせない気配りが必要」という。レストランは外部委託だが、接待されている人の気分を害さないように、食事はワゴンで4人分一緒に出すのだという。

接待コースならではの気配りで、ドレスコードも含めて戦前からのクラブのような堅苦しさやメンバーだけへの優遇は感じない。

野口部長は「夫婦で楽しめるファミリー会員も10年位(2010年8月から募集)になります、

他クラブと比べ、当クラブはメンバー料金でできることが大きいです。配偶者あるいは3親等までの親族という正会員だけの特典です。家族的な雰囲気もあります。

メンバーの平均年齢は60歳を超えています、法人が多いのでそれほど高くないです。また、当クラブはメンバー中心で、接待の利用が多かったのでキャディ付きが基本でしたが、実際にはセルフを選択される方もいて、7月11日の東インコース開場に合わせて、乗用カートにGPSナビ(ベストナビ)を導入しました」と話し。

支配人は「進行とか、スコア集計とか役立っています。結構スコア集計は大変なんです。間違えられないので。今度はお客様が自



乗用カートにGPSナビ導入。GW頃から関東ではいち早くビニールシートで4人座席をセパレートし感染対策

分で入力されるのでプリントアウトするだけです」と話している。

それと「大手運営グループのゴルフ場も近くにありますが、客層が違ふと思います。あちらはクラブ対抗などで競技志向の方も多いようですが、こちらは競技志向というよりもエンジョイ派、和気あいあいと楽しんでおられる感じ(支配人)。

ゴルフ場業界の今後については「やはり2極化していくのでしょうね。でも接待ゴルフはビジネスにも有効ですし、なくならない(野口部長)と、クラブが選んだ方向性にブレはないようだ。しかも、土日も来場者数を制限しているので、withコロナの時代にあっても合致した戦略となっている。たとえ、年間来場者数が平常時の目標人数に届かなくとも、逆に制限しているからこそコースコンディションを保てるもので、今回の修繕計画は同クラブにとって、今後は盤石とさせる策となったようだ。

最後に東コースの大改造を実現できた残土の話を加えよう。同クラブは表立って発表しているわけではないが、残土受入れにより工

事費用も捻出することができた。

野口部長は「残土受け入れができてそうということで、今回の総合修繕計画が進みましたが、最初の半年、1年位はなかなか土砂が入ってこなくて困りました」と話しており、工期に余裕も必要だ。また、近隣で国道バイパスの工事などで出る残土の受け入れを募集していたこと、同ゴルフ場は国道からすぐ直結する道路があり、土砂運搬タンクが行き来しても近隣からの反対が生じなかったこと、それに大量の土砂を受け入れる余地があったという需要と供給がピッタリあったことが功を奏したようだ。また開場時からコース内用地に地番のない赤道(あかみち)部分があったが、コース内を通る市道部分と交換し解消。道路の整備や場外飛び出し防止のネットを整備するなど様々な費用もかさんだようだ。

中央リニア新幹線は今後、東京ドーム50杯分の残土が発生するといわれ、一説には東京ドーム1杯分で40億円近くの残土受入代が発生するともいわれる。

今後、厚木国際のように残土を利用した改造が続くかも知れない。